「女性選手外来」東大病院に

無月経・摂食障害など対処

東京大学医学部付属病院に、女性運動選手を診療する「女性アスリート外来」が開設された。無月経や骨密度の低下、摂食障害など、女性選手が陥りやすい健康問題に専門の医師らが対応するほか、妊娠・出産後の競技復帰も支援。2020年の東京五輪・パラリンピックを見据え、健康的な選手の育成の新たな拠点を目指す。

女性選手には、運動量に見合った食事量を確保できず、月経が止まったり、10代から骨粗しょう症になったりするケースが珍しくない。こうした状況が続くと、骨密度低下による骨折や不妊につながる恐れがある。

外来は、国立スポーツ科学センター（東京都）で診察し、女性選手の実態を研究してきた産婦人科の能瀬さやか医師らが担当。月経が試合に重なり、力を発揮できない選手もいることから、薬を使った月経時期の調整や、月経痛への対処法なども紹介する。スポーツ栄養士の指導も受けられる。

読売新聞　2017年5月26日（夕刊）